

ラムサール登録

ラムサール条約は、国際的に重要な湿地に関する条約で、生物多様性の保全と人の暮らしの継続に欠かせない湿地に関わる国際的なネットワークの構築と維持を目的としています。現代において、複数の国の間に結ばれた初めての条約で、1971 年、イランのラムサール市で作成されました。そのため、ラムサール条約という通称で知られています。

ラムサール条約の主な目的は、世界中の湿地の減少を防ぎ、適正な使用と管理を通じて、湿原の保全を行っていくことです。ラムサール条約の規定により、河川からサンゴ礁まで様々な自然生息地や人工生息地を湿地として指定することができます。重要で珍しい湿地、または生物多様性保全の対象になるべき湿地は、ラムサール条約湿地として登録されます。

タデ原湿原は、固有の特徴を持つ湿地として認められ、その独特の湿地環境を保全するために、2005 年にラムサール条約湿地として登録されました。周辺の山々からの新鮮な湧き水によって作られたタデ原では、多数多様な植物や動物が生息しています。火山活動によって形成された地質を持つタデ原は、海拔約 1000m の高さに位置し、気候は涼しいです。このような条件がそろっているため、湿地は、希少で美しい植物、水生昆虫、野鳥などの生態系を支えています。

春から秋にかけて、100 種以上の野生の花が咲き、多数の蝶やその他の昆虫が生息しています。昆虫は、ホオアカの様な珍しい鳥を沼地に引き寄せます。この鳥たちの多くは、この湿原特有の環境においてのみ生息しています。

ラムサール条約湿地として指定されているタデ原湿原のもう一つの特色は、硫黄山から流れ出している、高酸性の白水川（日本語で「白い水の川」）です。硫黄山は、くじゅう連山の火山で最近噴火した唯一の山で、硫黄が白水川に流れ出ることによって、高酸性と白い濁りが発生します。生物にとっては生息しづらい白水川では、小魚しか生息していません。